



今回の紙面

- ◇地域医療最前線 NO. 29 《堀江 裕 先生》 ◇看護師さんのページ NO. 9 《吉木直子さん》
- ◇看護職員ガイダンスご案内 ◇研修医のページ 《藤原和成 先生》 ◇地域医療貢献奨励賞受賞 《榊原 均 先生》
- ◇第3回地域医療支援会議 ◇第2回地域医療の会 ◇第2回高校生医療現場体験セミナー
- ◇春季医学生地域医療実習 ◇医学生地域医療セミナー ◇医師確保対策事業報告 ◇その他

地域医療最前線

NO.29

済生会  
の  
歴史

済生会江津総合病院  
院長 堀江 裕



済生会の「済

生」という意味は生命を救済するという意味です。済生会病院は全国に81ありまして、保健

福祉施設をあわせると全国最大の医療福祉グループといわれています。市町村立病院は公立病院といわれますが、済生会病院は公的病院といわれ、組織としては昭和27年に「社会福祉法人」に分類されています。現在は寛仁親王殿下を総裁として東京に本部、全国41都道府県に支部を設置して81病院、老人保健施設25、老人福祉施設55など350をこえる施設を擁して保健医療福祉の連携をとって活動を展開しています。日赤病院とならび評される団体であります。

済生会のスタートは明治44年に天皇陛下が150万円を拠出され、時の総理大臣桂太郎さんが2500万円を

集めて診療所をつくられたことに始まります。島根県では昭和10年代に出雲、浜田、隠岐の3病院ができましたが、戦後役目を終えてなくなりました。昭和30年に江津に済生会病院ができて今日に至っています。平成16年6月から不肖堀江が6代目院長を拝命し現在に至っています。

(移転新築)

平成18年6月から、江津市観音町の山の上から、海に近い江津町へ移転しました。50年以上経過した旧病院は取り壊し、現在あとかたもありませんが、これまでの坂道を上がることもなくなり、バスも乗り入れており、便利もよくなりました。300床で、220が一般病棟、40が回復期リハ病棟、40が療養型病床でスタートいたしました。移転直前17年4月から、臨床研修が始まり医師は29人から23人まで減少しましたが、少しずつ増えて目下27人(20年4月)まで回復しました。

内科も消化器、循環器、糖尿、一般内科と充実し、外科、整形外科、産婦人科、小児科、泌尿器科、皮膚科という陣容ですが、脳神経内科、脳神経外科、呼吸器科、麻酔科などの常勤医師が切望されています。幸い20年4月から、「常勤病理医、眼科医師の確保」ができ、新臨床研修制度のなかで地域

にもすこしずつ医師が確保できつつあるなど感じています。



(病院の特徴)

私の好きな清水次郎長伝にでてくる大政、小政がいいますが、浜田圏域では浜

田医療センターが兄貴分で医師も40名を超えていて脳外科もあります。役割分担して脳疾患は診断してもらって、出来るだけ早くリハビリを始める慢性期を兼ね備えた病院として当院は特徴を出したいと思っています。とはいっても、急性期をどんどんやらないと、若い先生に魅力のある病院とうつりませんので、35名くらいの医師の確保をしたいと思っています。研修病院としても病理医がやつと確保できましたので、剖検体勢もとれそうです。若い先生の勉強できる病院に、どんどん来てもらえる病院にしたいと思っています。

看護師さんのページ

NO.9

平成記念病院看護部長 吉木直子  
国道54号線沿いの雲南市三刀屋町の市街地を目の当りに眺望できる高台

に、私の勤務する平成記念病院があります。介護老人保健施設の併設、療養病棟、透析室を有しているほか、救急病院の指定も受け、昼夜を問わず地域の幅広い医療ニーズに応えるよう努力を重ね、雲南地域の中核病院としての役割を果たしてきました。

さて、平成18年度診療報酬改定に伴う看護職員配置基準の改定により、看護師確保はますます困難な状況が続いています。特に中山間地である雲南地域の看護師不足は深刻で、このままでは地域医療の崩壊につながりかねないと不安視する声が広がっています。当院も例外ではなく、昨年12月末にやむなく訪問看護ステーションの休止に踏み切りました。

そこで、選ばれる病院、選ばれる職場にするために、また、在職する職員の離職を防止するために、当院でもアンケートを取りながら様々な工夫、努力を重ねています。今回その一部を紹介いたします。

### 【看護体制】

外来を当直制から2交代制にしました。当直による長時間の拘束から開放され、休みが確実に取れるようになりました。病棟では夜勤専従看護師の試行に踏み切りました。今のところ好評です。2交代、3交代のミックスも試行予定です。個々の生活状況にあわせ

た勤務ができるよう配慮しています。

### 【子育て支援】

1時間の短縮時間勤務は、子供が小学校4年生になるまで可能です。

夜勤のできる職員を確保するために、

夜間保育、病児保育ができる院内保育所の設置を目指し検討中です。

### 【IT化】

業務整理、効率化を目指し、オーダーリングシステム、電子カルテ導入に向け検討中です。システムの見学に県内外の病院を訪問しました。

平成20年度、新卒看護師の入職予定はありません。育児休暇を明けて2名の看護師が復帰します。彼女たちが「働きやすくなったね」、「やめなくてよかったね」と言ってくれるよう、対策を『検討から実現』へ、体制を整えながら中山間地の地域医療を確保するため努力したいと思います。



### 「看護職員就職ガイダンス」開催

#### 【日時】

○平成20年6月7日(土)

12時30分から16時まで

#### 【場所】

○パルメイト出雲 4階大会議室

(出雲市今市町2065

JR出雲市駅から北へ徒歩2分)

### 【内容】

○各病院のブースで人事担当者・看護職員により病院の情報提供を行います。

○有資格者に対しては就職相談に応じ病院の紹介を行います。

○病院の概要、勤務条件、採用計画が一覧できるガイドブックを配布します。

○病院のパンフレット等を展示しておりますので自由に持ち帰りができます。

### 【その他】

○当日参加可能 ○参加料は無料

### 【問い合わせ先】

島根県健康福祉部医療対策課医事・医療従事者確保グループ(伊藤)  
TEL0852-22-5252  
FAX0852-22-6040



NO.14

出雲市民病院研修医 藤原 和成

出雲市民病院での2年間の研修も終わりに近付いている。初期研修修了後も引き続き出雲市民病院で研鑽を積む予定だ。関西の実家へ戻る選択肢もあるが、島根で長く暮らすうちに、こち

らの水に馴染んでしまい、このまま地域のお役にたてればい  
いかなと考  
えている。

出雲市民

病院は医大  
と県中とい



う2大病院に挟まれた小さな病院で、より地域に密着した医療を行っている。当院でも医師不足は深刻な問題で、上級医や先輩医師のオーバーワークぶりを見るにつけて彼らの身体や生活への心配&自分の将来への不安を感じないではいられない。実際にそれを口にする研修医は少ないが、誰もが多かれ少なかれ感じている問題だ。

私は関西の田舎の出身で母は町立病院併設の施設で働いている。院長先生は母に「藤原さん、あなたの息子は帰ってこんのか」と問うらしい。その町立病院も医師不足で非常に厳しい状況にある。その院長が何かの用事で島根に来られた際、市民病院の前まで来たが門を叩くことなく帰って行かれた。地元出身の若い医師をスカウトに来たが当院や島根県の医師不足を思うと何も言えずにそのまま帰って行かれたのだろう。後日母が話してくれた。院長の思いつめた気持ちを思うと申し訳なく感じる。おそらくこういった葛藤は

日本中どこにでもあるのだろう。

少し前には医者は余っているとわかれていたらしい。医療の質・教育の質を棚に上げたおめでたい時代もあったものだと感じる。精神科研修時に指導医が、日本には医者が足りている地域など存在しない、偏在を医師不足の原因とするのはごまかしであると話してくれた。不足している医師を奪い合って生き残っていくことも重要かもしれないが、先の見えない消耗戦を強いられてどこまでやっていけるのか。そういった状況そのものが不安の根底にあると感じる。むしろパイそのものを増やすことでみんながハッピーになる方がより建設的ではないだろうか。同時に、この地域で働くことのミッションとビジョンを研修医が見つけていけるような研修が必要だと考える。それを考えることができる研修先で2年間頑張れたことに感謝している。

### 地域医療貢献奨励賞受賞

#### 榊原海士診療所長が受賞

医師不足の地域医療の最前線で活躍する医師を表彰するため、住友生命社会福祉事業団と自治医科大学とで創設した「地域医療貢献奨励賞」に海士町の海士診療所の榊原均（52歳）所長

が選ばれました。この表彰は今年度から創設されたもので、全国で六名の医師が選ばれました。

榊原先生は、海士町出身で昭和55年に獨協医科大学医学部を卒業し、小児科医として病院勤務を経て、平成6年から海士診療所に勤務、平成10年から所長に就任され、離島医療という特殊な環境下で、ヘリコプターによる救急搬送や土日・夜間対応など地域住民の医療の確保をはじめ、福祉や保健の推進にも情熱を傾け弛まぬ努力を続けておられます。今後ますますのご活躍を期待します。



### 第3回 地域医療支援会議

県内の地域医療をより総合的・体系的に推進するため、本年度第3回目の地域医療支援会議を3月14日に開催しました。

今回の会議で、平成20年度の義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣計画案が了承されました。また、今年度第1回地域医療支援会議から検討を重ねてきた平成20年度から24年度までを計画期間とする島根県地域医療支援計画案が了承されました。

平成18年医師・歯科医師・薬剤師調査の結果について、平成16年と比較して43人の医師が増加しているが、地域偏在が顕著になっていることなどの報告をしました。また、平成21年度医師確保関連予算の説明の中で、今年度の医師確保実績として、54人の県外医師と面談し、うち11人を招聘したことを報告しました。

#### 【医療対策課 門城】



### 第2回 地域医療の会

2月9日、今年度第2回「しまね地域医療の会」を開催しました。

「しまね地域医療の会」は、県内の地域医療の向上発展に貢献するため、医療現場等で勤務する医師が情報・意見交換を行う場で、年2回開催しています。

各地域からの医師、看護師不足をはじめとした現状報告の後、「夢のある地域医療」確保のための対策などについて活発な議論がなされました。

今後もこの会を通じ、島根の地域医療を担う医師の交流の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

#### 【医療対策課 仕立】

### 第2回 高校生医療現場

#### 体験セミナー

医療現場での体験を通じ、医師という職業や医療への理解を深めてもらい、医師を目指す高校生を増やすことを目的とし、3月25、26日、島根大学医学部附属病院、松江赤十字病院、益田赤十字病院で高校生医療現場体験セミナーを開催しました。

昨年度から実施しているこのセミナーに、今回は9校から50名の参加があり、参加した生徒たちは、それぞれの病院で、医療現場を肌で感じ、また、指導、助言してくださる先生方の熱意も伝わってくるセミナーでした。

参加した生徒さんの中から、将来、地元の地域医療を担う医師が誕生することを期待するものです。

#### 【医療対策課 仕立】

リハビリについて学ぶ様子



春季

### 医学生地域医療実習

医学生に離島や中山間地の医療を実際に肌で感じてもらうため、春休みを利用して、春季地域医療実習を開催しました。

今回は、松江、大田、浜田、益田、隠岐島後及び隠岐島前の6地区において、1年生から3年生までの14名の医学生が参加し、1泊2日の日程で地域医療に関する理解を深めてもらいました。

次回の医学生地域医療実習は、夏休みを利用して実施する予定です。

#### 【医療対策課 門城】



▼美都診療所 待合いにて

#### ★医学生地域医療セミナー開催

医学生に地域医療についての理解を深めてもらうため、3月29日に出雲市において約30名の参加のもと医学

生地域医療セミナーを開催しました。

はじめに、公立邑智病院院長の石原

晋先生より「地域医療の現場からこの国のありようを問う」と題して講演を

していただきました。「教えやいこ、助けやいこで何でも診療」などの公立邑智病院の地域医療の考え方から、「倫理無き自由競争」が医療崩壊を招いた現在の日本の社会のあり方まで、幅広く

深みのあるお話を聞くことができました。日本のこれからを考える上で、公立邑智病院の再生はわが国のありようを問う一大事業であると結ばれました。

講演終了後に、「地域医療実習について」をテーマとして、医学生と実習受入医療機関と実習実施機関である保健所との間で意見交換を行いました。医

学生からは、春季地域医療実習の感想のほか、学年別の実習に参加する思いの違いや実習参加への動機付けの仕方などについて

意見や提案があり、活発に意見交換が行われまし

た。意見交

換でいた だいた意 見や提案

石原院長の講義を聞く医学生



については、今後の地域医療実習に生かしていきたいと考えております。

#### 【医療対策課 門城】

#### 医師確保対策（春季）報告

平成18年に厚生労働省が行った「医師・歯科医師・薬剤師調査」によると島根県の医師総数は増加していますが、地域偏在はより顕著となっています。

当室では、全国各地に足を伸ばし島根県で勤務いただける先生と面談を行っており、平成19年度は、50名を超える先生と面談させていただきました。その結果11名の方の県内勤務が決まり、そのうち7名は医師が減少している圏域へ着任いただきました。

この活動だけで、島根県の医師不足を解決することはできませんが、地域偏在解消の一助となるよう今年度もスタッフ7名体制で引き続き取り組んでまいります。

また、こうした取り組みを行うためには、島根県に縁ある先生の情報が何より重要です。少しの可能性でも昼夜を問わず直ぐ飛んで参りますので、ぜひ情報をお寄せください。ご協力よろしく申し上げます。

#### 【医療対策課 石倉】

#### 島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、同意を得た上で是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供するとともに、県内での勤務を支援します。

#### 医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

#### 「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県医療対策課医師確保対策室  
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040  
E-Mail [iryout@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryout@pref.shimane.lg.jp)  
ホームページ：<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>



